

THE **A** MUSEUM

Vol.17-3 第50号 2023.3

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore



博物館 改修工事 2022.12.5~2023.10.13

- ・ 工事休館中も情報発信を続けます～それでも館は回っている～ 1
- ・ 改修工事のいろは 1
- ・ 変わる博物館 3
- ・ 新収集品のご紹介 5
- ・ れきみん埼玉応援キャラクター紹介 6
- ・ 休館中の事業紹介 9

工事休館中も情報発信を続けます～それでも館は回っている～

館長 末木 啓介

当館は令和5年10月13日（金）まで改修工事により休館させていただいております。今回の工事によって、展示も見やすくなり、より安全な施設としてリフレッシュします。

休館といっても博物館の活動は止まっていません。4月26日から6月25日まで、深谷市と協力して渋沢栄一記念館で出張展示を行う予定ですし、当館の学芸員が県立図書館や他の県立博物館施設などに出向いて講座や体験事業を行う計画もあります。

また、ネットを使った発信も強化しています。当館HPでは、これまでの企画展や体験事業の様子などを動画でアップしています。今後は「学芸員のイッピン」として学芸員がお勧めする資料の解説動画も公開してまいります。ほかにも、「工事休館中ブログ」や「れきみんクイズ」、当館オリジナルのペーパークラフトやカレンダーといったコンテンツをネットでお楽しみいただけます。「れきみん埼玉 おうちミュージアム」で検索を！

そして、10月14日（土）の再開館後にはリフレッシュした博物館にぜひ足をお運びください。



歴史と民俗の博物館は令和4年12月5日から令和5年10月13日まで、大規模改修工事に伴い休館をしています。

今回の改修は施設内部の設備更新が中心になります。外部からは博物館の動きが見えない状態が続きますので、博物館だよりを通して工事について簡単に紹介できればと思いを執りました。

休館に入るとすぐに膨大な資料を改修の影響のない安全な場所に移動する作業が始まりました。歴史・民俗・美術工芸をはじめとした多彩な資料は、頑丈なものから繊細なものまで様々です。資料の性質によっては単純に移動させるだけではなく、綿布団や薄葉紙で梱包するなど慎重に扱う必要があります。

資料移動が完了し工事ができる状態になると、まず各業者が現場を知るため調査に入ります。今回の工事の場合、電気系統や空調といった分野ごとに複数の業者が同時に工事を進めています。現地調査では図面上の工事計画と実

特別 展示 室	1	壁面展示ケース更新
	2	床材をビニル床タイルからリノリウム床に更新
	3	壁材及び天井材を法定不燃ボード下地・不燃クロス張りに更新
	4	ピクチャーレール新設
季節 展示 室	1	天井の木目調シートをウール化粧吸音板に更新
	2	壁面展示ケースをジュラク壁風仕上げから白色クロス張りに更新
	3	ピクチャーレール新設
常設 展示 室	1	第3室壁面展示ケースの更新
	2	既存展示壁面クロス一部更新
	3	既存建具一部再塗装
	4	天井面一部更新
そ の 他	1	外壁断熱材飛散防止処理
	2	鋼製シャッター等建具の更新
	3	屋上防水改修
	4	各照明器具の更新(LED化)

工事内容（一部）



床に養生材を貼った季節展示室

際の現場状況をすり合わせて、完成形を固めていくとともにどのような工程で進めていくかを決めていきます。

続いて行われるのが館内の養生作業です。工事が本格化すると施設内では重量のある資材の行き来や解体等の衝撃を伴う作業が増えていきます。その際、守るべきは資料だけではありません。建物についても、傷がつかないように工事を進めていかななくてはならないため、床などに養生を行います。

養生が終わるといよいよ現在の設備を解体し、新たな設備を取り付けていく作業となります。当然ですが解体してしまうとその設備の機能は停止します。しかし、工事だからという理由で博物館の空調機能等をすべて止めるわけにはいきません。収蔵資料の保護を第一に、収蔵庫では空調機1台を稼働して保存環境を守りながら解体と設置を繰り返していきます。設備改修の場合、外部で組み立てられた機器を設置していく作業が多いことから、機器の製作時・納品時に品質を確認して、確実に一つずつ設置していきます。

設置まで終わると試験と調整が行われます。実際に設備を動かしてみても正常に動作するように設定を調整して完了となります。

以上が工事の簡単な流れです。実際は、より細かい準備や作業の積み重ねによって進んでいくことになります。皆様にとっても資料にとっても、よりよい環境になるよう誠心誠意努めてまいります。

(施設担当 関根 嵩弥)



特別展示室 既存床タイル撤去作業

変わる博物館

昭和46年11月、当初は県立博物館という名前で建てられた当館も本年度で51年目を迎えます。建設当初は国内で第一級の設備でしたが、時代とともに技術の進化や繊細な保存環境整備、利便性の向上など社会的に求められる設備のレベルは高くなっています。当館ではこれまでも大規模改修工事を行っていますが、1度の工事ですべての設備を改修できるわけではありません。前回の改修では館全体の空調に関する蓄熱システムの導入や階段昇降機の設置などを行いました。施設の状況を考慮し、より必要性の高いものを優先的に改修することで少しずつ進化しています。

今回の大規模改修工事は2回の工期に分けて実施されます。現在行われている1期工事では展示ケース改修が目玉となっていますので、この場で改修のポイントを紹介させていただきます。

（1）壁面展示ケースへの空調導入

貴重な資料を取り扱う上では、展示ケース内の環境も整える必要があります。通常、展示ケースは閉じられているため空気が滞留し続けます。しかし、そのままにしておくと展示ケースの素材などに起因したVOC（有機酸・ホルムアルデヒド・アンモニア）のような資料に悪影響を与える物質が発生したとき、同様に滞留してしまうことになります。2009年の工事では展示ケース自体に空調が導入されましたが、今回の改修では壁面ケース新築に伴い気流を改善し、化学フィルター・常時換気を行いながら温湿度管理と空気質を高めることによって、資料の保存に、より適した環境を維持しながら展示できるようになります。

(2) 照明設備のLED化

資料を展示するために不可欠な要素として「光」があります。当館の照明は現在、資料にとって有害な紫外線をカットした博物館専用の蛍光灯を主に使用しています。更新に際して検討を重ねた結果、様々な面で優れているとしてLED照明が採用されました。

LEDは紫外線や熱を原理的に発生しないため、資料に悪影響は少ないと考えられています。また、調光範囲が広く、調色も可能です。昨今のLED照明は演色性もよくなりました。一方でLED光は直進性の強い光ですが、特殊な工夫を行うことにより鮮やかに資料を展示できるようになります。設備管理の面でも蛍光灯と比較して寿命が非常に長くメンテナンスが容易となります。さらに、かなりのCO2の削減を見込むことができます。



改修作業のため

1か所に集められた移動展示ケース

(3) ミュージアムガラスへの更新

博物館の展示ケースに使われているガラスは、通常の建物で使われるガラスではありません。貴重な資料をあますことなく見ってもらうために普通のガラスより緑色がからず透明度が高いものです。ミュージアムガラスは20～30年前より使用されてきました。改修を経て当館の展示ケースも普通のガラスから、より透明度の高いミュージアムガラスに変わります。当館の資料がより鮮明に見えるようになることで皆様の新しい発見に繋がりますと幸いです。

現在の改修工事では今回御紹介した箇所に限らず展示室の内装や裏方の設備まで更新されます。再開館後は展示とともに改修工事を経た施設の変化についても注目して御覧いただくと新鮮な楽しみ方ができるかもしれません。

(施設担当 関根 嵩弥)



新 収集品のご紹介

当館では、資料を購入したり、ご寄贈を受けたりして、資料の収集をしています。収集は、埼玉県に縁があるか、展示に活用できるか等、様々な点を考慮し、受け入れできるかを検討し行っています。収集した資料は2年に1度、「新収集品展」として皆様にお披露目しています。令和4年度の夏に開催した「新収集品展 2020・2021」は記憶に新しいのではないのでしょうか。

さて2022年度（令和4年度）には現時点でおおよそ200点の資料を新たに収集しました。その一部をご紹介します。

おしえはごいためんそうし たかせけ 押絵羽子板面相師・高瀬家関係資料

押絵羽子板（写真①）とは、羽子板を土台に、面を厚紙や布で包み、絵を立体的に表現したもので、面相師とは下図の製作や押絵の顔、手足を描く職人です。高瀬家は親子2代にわたって押絵羽子板の面相師をしていた家で、下図や型紙、原材料等の5,584点が県の有形民俗文化財に指定されています。

令和4年度、高瀬家から新たに下図や製作道具等、118点をご寄贈いただきました。



写真①押絵羽子板（藤娘）



写真②下図（藤娘）

※写真①の押絵羽子板は写真②の下図から作られたものではありません。

下図（写真②）は、押絵師の依頼により面相師が描いた押絵羽子板の図案であり、設計図でもあります。今回受贈した下図は、すでに収蔵されている高瀬家資料にはみられない題目を扱ったものも多くあります。写真は「藤娘」の下図です。「藤娘」とは大津絵の画題であり、その画題から題をとった歌舞伎舞踊の演目です。押絵羽子板にも藤を刺した黒い傘をかぶった女性が表されています。

ちちぶにじゅうはちばんせきりゅうざんはしだてでら おくのいんがんくつえず 秩父二十八番石龍山橋立寺 奥院岩窟絵図

本資料（写真③）は、秩父札所巡礼の28番札所、橋立寺の奥院岩窟が描かれた江戸時代後期の絵図です。

秩父札所は、全部で34カ所の札所があり、西国、坂東の三十三カ所観音霊場と併せて、日本百番観音に数えられます。また、江戸時代では、関所手形のいない地域として、江戸や関東の庶民に人気がありました。中でも橋立寺は秩父札所唯一の馬頭観世音ばとうかんぜのんを本尊としており、また、観音脇には鍾乳洞があり、胎内めぐりができることから信仰を集めました。本資料では、鍾乳洞内のルートが朱色で示され、鍾乳石せきじゆんや石筍を「下り龍の頭」等に見立てて描かれています。信仰の名を借りた物見遊山的な要素が盛り込まれていることがわかります。

（資料調査・活用担当 濱田 翠）



写真③「東」の字の左下に「下り龍」が描かれています。

れきみん埼玉 応援キャラクター紹介

歴史と民俗の博物館、通称「れきみん埼玉」の動画やブログなど、工事休館中の情報発信を学芸員と一緒に盛り上げてくれているキャラクターたちを御存知でしょうか？ぜひ皆様にも知っていただきたいと思い、この場をお借りして御紹介します。

てんぐまい三人衆

てんぐまい三人衆は当館の代表的な収蔵資料である『太平記絵巻』から飛び出したあやしきものたちで、リーダー的存在のカラス天狗「テンちゃん」、カワイイ担当「ウサちゃん」、歴史好きで無邪気な「オニちゃん」の3人組です。

『太平記絵巻』とは、南北朝時代のおよそ50年間にわたる動乱を記した軍記物語『太平記』40巻を12巻組の絵巻に仕立てた作品です。原本が現存するのは巻第四、第九を除いた10巻で、そのうち5巻（巻第一、第二、第六、第七、第十）を当館は所蔵しています。

てんぐまい三人衆の元ネタとなったあやしきものたちは、『太平記絵巻』巻第二「相良入道弄田楽并闘犬事」という場面（『太平記』では巻五収録）に登場します。



『太平記絵巻』巻第二(当館蔵) 「相良入道弄田楽并闘犬事」
中央の人物(相良入道)の左側にいる3体が三人衆のモデル。



過去の企画展ではSNSで登場。

田楽を好む相良入道（執権北条高時）がある夜、酔った勢いで舞を舞っているとどこからか田楽師たちが現れて共に舞い、その歌で「天王寺のや、ようれぼしを見はや」と囃しています。その賑やかさを聞いた女房が部屋を覗いて見ると、入道と舞う田楽師たちは人ではない異類異形のものたちだった、という場面です。「ようれぼし（妖霊星）」は災いを起こし天下を乱す悪い星であり、仁政を行って怪しげなものを追い払うべき執権があやしきものとそのような舞をするほど幕府が堕落していることを暗示しているシーンです。ここで高時の左側に描かれる天狗、うさぎ、青鬼が飛び出したことで、てんぐまい三人衆は生まれました。

といっても、三人衆は当館に災いをもたらすものではありません。過去の企画展「くらべる古美術」、「太平記絵巻」で登場し、当館SNSを中心に展示を盛り上げてくれました。



テンちゃん



ウサちゃん



オニちゃん

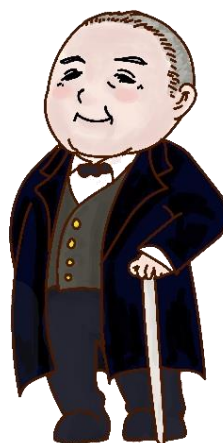
栄一さんとたまちゃん

言わずと知れた埼玉の偉人、渋沢栄一の晩年の姿をモデルとしたキャラクターが「栄一さん」です。栄一さんは経済のみならず教育、社会福祉、民間外交、文化と幅広く活躍し、なんでも知っています。

渋沢栄一は晩年、排日移民法によって日米の関係が悪化することを危惧したアメリカ人の民間平和外交事業に賛同し、アメリカからは青い目の友情人形を、日本からは答礼人形を贈りあうという活動を主導しました。

日本からアメリカへ贈られた 58 体の答礼人形のうち埼玉県ちちぶの代表「ミス埼玉」となった日本人形が「秩父嶺玉子ねたまこ」です。「秩父嶺玉子」という名前は栄一が名付けました。当館では令和 2 年に「秩父嶺玉子」制作当時の姿の復元事業を行い、特別展「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」で公開しました。

たまちゃんは「秩父嶺玉子」をモデルとした長いまつげと緑の黒髪がチャームポイントの女の子。



栄一さん

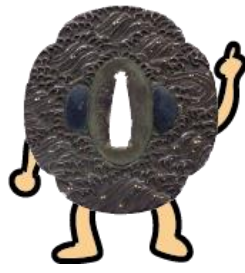


たまちゃん

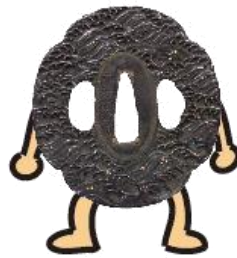
「秩父嶺玉子」
(復元、当館蔵)



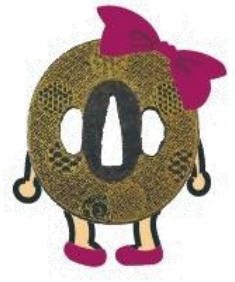
ブラザーズ ツバ兄弟



ツバくん



ツバくん Jr.



つば江ちゃん

熱く涙もろい江戸っ子のツバくんと、落ち着いた物知りのツバくん Jr.のツバ兄弟は、当館で收藏している「波濤図罽はとうずつば 大・小」から生まれたキャラクターです。兄弟を名乗っていますが、ふたりの関係は謎です。

モデルとなった罽しやくどう「波濤図罽 大・小」は、赤銅地、高彫、金象嵌きんぞうがんの大小 2 点の罽です。その特徴は、深みのある黒色（赤銅）に立体的に盛り上げて彫られた波の文様（高彫）と、散りばめられた金色の象嵌です。

特集展示「わざの世界」で初登場し、twitter 上のハッシュタグ「#ツバ兄弟が参る」で活躍しました。

その後、熱いツバくんと落ち着いた Jr.のやりとりがマンネリ化してきたため、テコ入れのため追加メンバーとして「罽(献上罽・金象嵌図)」を元に生まれたつば江ちゃんが登場しました。



波濤図罽 大



波濤図罽の高彫

現在、このキャラクター達を使ったオリジナルグッズとして「A4クリアファイル（太平記絵巻）」と「マスキングテープ（栄一さんとたまちゃん）」を通信販売にて取り扱っています。

その他、ホームページのデジタルコンテンツページでは、てんぐまい三人衆が登場するすごろくやポチ袋、お面などのデータを配布中ですので、ぜひ御覧ください。



さらに、キャラクター達は主に休館中の情報発信を担う当館「おうちミュージアム」のブログやれきみんクイズ、公式 Youtube「れきみん埼玉ちゃんねる」にも登場します。これらを通して徐々に当館を愛する皆様に知っていただき、工事が完了して再開館する際には、刊行物やミュージアムショップでもお会いできるようになっていく予定です。今後も「れきみん埼玉」とてんぐまい三人衆、栄一さんとたまちゃん、ツバ兄弟をよろしくお願いたします。

れきみん埼玉グッズ開発室(仮)

出張展示

書画から見よう

栄一と惇忠

歴史と民俗の博物館は、大規模改修工事のため、現在休館しています。休館期間中、より多くの県民の皆様にご当館の活動を紹介するため、出張展示を開催します。

本展では、深谷市の渋沢栄一記念館と協力・連携し、深谷市ゆかりの渋沢栄一と尾高惇忠について、彼らに関する書画からその人となりや交流関係を紹介します。

渋沢栄一（1840～1931）は、近代日本経済の礎を築いた実業家です。91年の生涯を閉じるまで、約500の企業の設立などに関与、約600の社会公共事業に協力して、あらゆる分野で日本の近代化を推進しました。

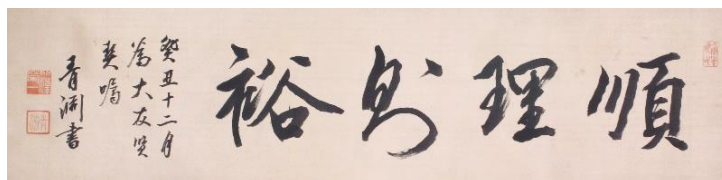
尾高惇忠（1830～1901）は、栄一の従兄にして、学問の師にあたります。明治維新後、富岡製糸場の初代場長を務めました。その後、第一国立銀行の盛岡支店などの支配人も務め、日本の産業振興に奮励しました。

渋沢栄一と尾高惇忠は、政治経済や産業での功績が知られていますが、書画に関しても、ともに熱心であったことがうかがえます。出張展示では、歴史と民俗の博物館の収蔵資料の中から渋沢栄一に関連する資料を展示します。また、渋沢栄一記念館が所蔵する尾高家旧蔵の絵画資料もあわせて公開します。

出張展示の展示資料の中から、一つご紹介しましょう。

こちらは、渋沢栄一書「順理則裕」（歴史と民俗の博物館蔵）です。

「順理則裕」は、「理にしたが順えれば則ち裕かなり」、つまり、道理に従えば豊かになるという意味です。儒学一派である朱子学の基本『小学』から引かれた言葉で、栄一の座右の銘の一つでした。



この作品は、絹に墨書されており、縦32.0 cm、横131.0 cmの大幅です。大正二年（1913）に、大友幸助に宛てて揮毫されたものです。大友幸助は、栄一が関与した企業の秩父セメント株式会社で二代目社長を務めました。栄一は書によく「順理則裕」を揮毫しており、栄一が関与した企業の中には、この言葉を社訓として掲げているところもあります。栄一の理念を表明するものとして、今も受け継がれている言葉の一つといえるでしょう。

この機会に、栄一と惇忠ゆかりの書画をぜひ御覧いただけましたら幸いです。

（展示担当 井上 海）

出張展示「書画から見よう 栄一と惇忠」

会 期：令和5年4月26日(水)～6月25日(日)

会 場：渋沢栄一記念館（深谷市下手計1204）

開館時間：午前9時～午後5時

観 覧 料：無料

休 館 日：5月29日(月)・30日(火)

※出張展示の詳細は、渋沢栄一記念館または、当館ホームページをご確認ください。



休館中の事業紹介

出張ものづくり体験

あなたの街にも ゆめ・体験ひろば

日時	5月20日 (土)	6月10日 (土)	7月23日 (日)	8月8日 (火)	8月18日 (金)
内容	藍染め ハンカチ づくり	まが玉 づくり	まが玉 づくり	絵巻物 づくり	絵巻物 づくり
会場	県立 さきたま 史跡の 博物館	県立 自然の 博物館	県立 近代 美術館	県立 嵐山 史跡の 博物館	県立 文書館
費用 (材料費)	200円	250円	250円	200円	200円



館内のゆめ・体験ひろばにある体験工房で体験できる藍染めハンカチづくりやまが玉づくり、絵巻物づくりを県内各会場で楽しめます。

出張講座



歴史と民俗の博物館 学芸員総出演

あなたの街にも「れきみん埼玉」

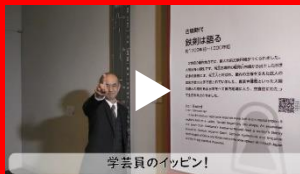
県立久喜図書館、県立熊谷図書館、川越地方庁舎（ウエスタ川越）を会場に、当館の学芸員全員が登場する講座を開催します。

日時	5月27日 (土)	6月18日 (日)	7月26日 (水)	8月1日 (火)	8月25日 (金)
会場	県立 久喜 図書館	県立 熊谷 図書館	川越 地方 庁舎	県立 久喜 図書館	川越 地方 庁舎

おうち ミュージアム

おうちで
たのしくまなべる

自宅でも楽しめる各種コンテンツをホームページで発信しています。



▶公式 Youtube チャンネル
「れきみん埼玉ちゃんねる」
博物館紹介動画続々公開予定

収蔵資料や博物館の日々の業務に関する情報を発信！

工事休館中フログ
～それでも館は回っている～

帰ってきたッッ!!
れきみんクイズ

れきみん埼玉グッズ開発室(仮)



印刷して遊べるグッズを配信中！

総務担当より

休館中も図録・グッズ等を販売しています！

当館の各種刊行物・グッズ等については、工事休館中も通信販売、または事務室での対面販売にてお求めいただけます。

購入方法の詳細及び販売物のリストは当館ホームページで御確認ください。